

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成21年2月19日 (2009.2.19)

【公表番号】特表2008-529973(P2008-529973A)

【公表日】平成20年8月7日 (2008.8.7)

【年通号数】公開・登録公報2008-031

【出願番号】特願2007-547565(P2007-547565)

【国際特許分類】

C 0 7 C 265/00 (2006.01)

C 0 8 G 18/72 (2006.01)

C 0 9 J 175/00 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 7 C 263/18 (2006.01)

C 0 9 D 175/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 265/00

C 0 8 G 18/72 Z

C 0 9 J 175/00

C 0 9 J 11/06

C 0 7 C 263/18

C 0 9 D 175/00

【手続補正書】

【提出日】平成20年12月19日 (2008.12.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

順次添加又は同時添加のための、ジイソシアネートモノマー及びアミノ酸から由来するモノマーの含有率が最大 5 重量%であり、イソシアネート官能基含有率が最大 5.5 重量%であるイソシアネート副組成物を含むこと、並びに

カルコゲン列の非金属又は窒素列の原子に結合したジヒドロカルビルシリレン基 $[-(Hc)_2Si-]$ 又はヒドロカルビル(ヒドロカルビルオキシ)シリレン基 $[-(Hc)(Hc-O-)Si-]$ を有する少なくとも 1 種の化合物から成る助剤を追加的に含み、前記の基の含有率が、それらから由来する単位に対応するモノマーの量に対するジヒドロカルビルシリレン中に存在するケイ素原子 ($AW = 28.1$) の重量として表わして、少なくとも 0.1 重量%であって最大 3 重量%であること
を特徴とする、組成物。

【請求項 2】

前記非金属が酸素であり、該酸素が電子求引基 Ew に結合し、この電子求引基 Ew が、 $Ew-OH$ が水中で測定して 9 以下の pKa を有する酸となるものであることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記非金属がカルコゲン $-Y-$ であり、このカルコゲンが電子求引基 Ew に結合し、この電子求引基 Ew が、 $Ew-Y-H$ が水中で測定して 9 以下の pKa を有する酸となるものであることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記非金属がカルコゲン-Yであり、このカルコゲンが電子求引基Ewに結合し、この電子求引基Ewが、Ew-Y-Hが水中で測定して8以下のpKaを有する酸となるものであり、該組成物が前記酸を中和することができるアルキル化可能ではない有機又は無機塩基を含むことを特徴とする、請求項1～3のいずれかに記載の組成物。

【請求項 5】

規定度で表わした塩基の量が、ケイ素原子当量として表わしたジヒドロカルビルシリレンの量の少なくとも0.1倍であることを特徴とする、請求項4に記載の組成物。

【請求項 6】

規定度で表わした塩基の量が、ケイ素原子当量として表わしたジヒドロカルビルシリレンの量の2倍以下であることを特徴とする、請求項4又は5に記載の組成物。

【請求項 7】

順次又は同時に添加するための界面活性剤を追加的に含むことを特徴とする、請求項1～6のいずれかに記載の組成物。

【請求項 8】

順次又は同時に添加するための溶剤を追加的に含むことを特徴とする、請求項1～7のいずれかに記載の組成物。

【請求項 9】

吸湿性溶剤（極性官能基を有するもの）を追加的に含むことを特徴とする、請求項1～8のいずれかに記載の組成物。

【請求項 10】

順次又は同時に添加するための移動性水素を有する多官能性副組成物を追加的に含むことを特徴とする、請求項1～9のいずれかに記載の組成物。

【請求項 11】

カルコゲン列の非金属又は窒素列の原子に結合したジヒドロカルビルシリレン基 $[-(Hc)_2Si-]$ を有する化合物から成るイソシアネート組成物用助剤であって、前記の基の含有率が、それらから由来する単位に対応するモノマーの量に対するケイ素原子(AW=28.1)の重量として表わして、少なくとも0.1重量%であって最大3重量%である、前記助剤。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0142

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0142】

この研究において用いたイソシアネート硬化剤の組成物は、次の通りである：

- ・酢酸メトキシプロピル(MPA)：最後の瞬間において55重量%添加し、水500ppmの存在をもたらす；
- ・次の組成の親水性ポリイソシアネート：
 - ・13個の炭素原子及び6個のエチレンオキシド単位を有するポリエトキシ化アルコールでエステル化されたホスフェート4.66%；モノ*/ジの比=70/30
 - ・8個のエチレンオキシド単位を有するポリエトキシ化アルコールでエステル化されたホスフェート4.66%；モノ*/ジの比=70/30；4%非イオン性
 - ・ジメチルシクロヘキシルアミン(DMCHA)：2.22%
 - ・低粘度のHDIをベースとし、総重量に対する真の三量体の比が0.6（数学的に丸めたもの）であるイソシアネート組成物：100%に足りる量
- ・NC O 23%
- ・粘度(SAC) 600mPa・s
- ・当量183
- ・固形分含有率100%

・・・官能価 3.25。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0149

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0149】

各種の構造の性能を示すために研究した配合物の組成を、下記の表IIに与える。混合物 3～8は、水をさらに添加する前に混合物 1 に最初に酢酸塩の添加の際に 500 ppm 添加されていることを考慮に入れて、脱水剤を添加して、配合した。すべての場合において、NCO 官能基との反応が回避されるように、水を最後に（即ち脱水剤を導入した後に）添加した。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0150

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0150】

混合物 8 は、BSU 及び TMS P を溶解させるために、超音波浴中に 30 分間保った。